

CSR の考え方

「KDDI フィロソフィ」

「KDDI フィロソフィ」とは、会社の目指す姿や、その実現のために、社員が持つべき考え方、価値観、行動規範を示したものです。通信事業を本業としている KDDI だからこそ大事にしなければならぬ KDDI らしさや KDDI のあるべき姿が随所に盛り込まれています。「KDDI フィロソフィ」にもとづいて全社員が行動するよう、その徹底を図っていきます。

企業理念

KDDIグループは、全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、お客さまの期待を超える感動をお届けすることにより、豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献します。

KDDI フィロソフィ

第1章 目指す姿

- ・ つなぐの思い、つなぐのは笑顔
- ・ 真のグローバル化へ
- ・ 365日、守るのが使命
- ・ お客さま第一に考える
- ・ 驚きを超え、感動をお客さまに届ける
- ・ 夢を描き、追い続ける
- ・ 一人ひとりがKDDI
- ・ ダイバーシティが基本

第2章 経営の原則

- ・ 社会への責任を果たす
- ・ 事業の目的、意義を明確にする
- ・ 公明正大に利益を追求する
- ・ ガラス張りて経営する
- ・ 売上を最大に、経費を最小に
- ・ 筋肉質の経営に徹する
- ・ リアルタイムで経営する

第3章 仕事の流儀

高い志を抱き、具体的な目標を立てる。絶対に達成するという強烈な願望を持ち、成功するまであきらめずにやり抜く。そして、達成した喜びを分かち合う

第4章 行動の原則

- ・ 自ら燃える
- ・ 闘争心を燃やす
- ・ シブゴト化する
- ・ 本気、本音でぶつかる
- ・ スピード感をもって決断し行動する
- ・ 一丸となってやり抜く
- ・ 目標を上げる
- ・ 外を見て内を知る
- ・ チャレンジ精神を持つ
- ・ 常に創造的な仕事をする
- ・ どんな仕事も地道に一步一步、たゆまぬ努力を続ける
- ・ 能力は必ず進歩する
- ・ 原理原則に従う
- ・ 現地現物で本質を見極める
- ・ フェアプレイ精神を貫く
- ・ 小善は大悪に似たり、大善は非情に似たり

第5章 人生の方程式

- ・ 人生・仕事の結果=考え方×熱意×能力
- ・ 人間として何が正しいかで判断する
- ・ 利他の心で考える
- ・ 感謝の気持ちを持つ
- ・ 常に謙虚に素直な心で
- ・ 常に明るく前向きに取り組む

KDDI の CSR の考え方

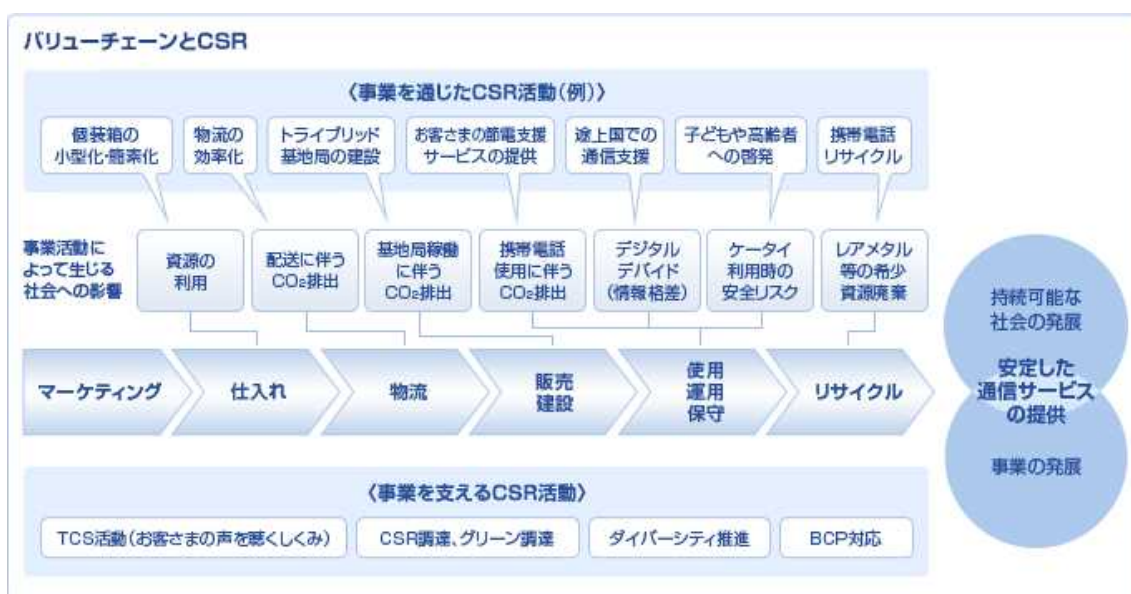
KDDI フィロソフィを実践し、豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献します

KDDI は、「KDDI フィロソフィ」の実践を通じて、すべてのステークホルダーの皆さまから愛され、信頼される企業を目指しています。KDDI には、社会インフラを担う通信事業者として、24 時間 365 日いかなる状況でも、安定したサービスを提供する重要な社会的使命があります。と同時に、通信事業は、電波など国民共有の貴重な財産をお借りすることで成り立っているだけに、社会が抱えるさまざまな課題に対しても、高い志を持って、自ら貢献していく社会的責任があると認識しています。このような企業としての姿勢、社員の持つべき考え方を「KDDI フィロソフィ」のなかに明示しています。

KDDI の事業活動と社会的責任

安定した通信サービスを提供する、それが私たちの事業の基本です。そのサービスの提供を支える KDDI の CSR 活動として、TCS（お客さまの声を聴く仕組み）などをはじめとしたステークホルダーエンゲージメント、CSR 調達、ダイバーシティの推進、BCP 対応などがあります。これら基盤となる CSR 活動とともに、事業活動によって生じる社会への影響を自社のバリューチェーンに則して認識していくことが、KDDI の社会的責任としてますます重要になると考えます。

バリューチェーンの各段階において発生する、デジタルデバイド（情報格差）、携帯電話やインターネットに関する犯罪、環境負荷といった、社会的な課題の数々をリスクとして捉え、その課題解決に向けた事業を通じてさまざまな CSR 活動を展開しています。事業を支える CSR 活動と事業を通じた CSR 活動を推進していくことで、KDDI は「事業の発展」と「持続可能な社会の発展」を両立していきます。



ともに創り出す社会へ

KDDI は、常に「KDDI フィロソフィ」の実践を目指し、これからも、お客さま、株主さま、お取引先さま、地域社会など、KDDI を支えていただいているすべてのステークホルダーの皆さまとの対話を尊重します。そしてステークホルダーの皆さまとの共創を積み重ね、社会的課題に積極的に取り組み、豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献していきます。

CSR の推進

推進体制

2005 年 10 月に総務部内に CSR 推進室（現：CSR・環境推進室）を設置し、客観的な視点で CSR 活動を推進するとともに、社内研修、社内報やイントラネットなどを通じた社内啓発や社員がボランティア活動に参加しやすい環境整備などによる社会貢献活動を推進しています。

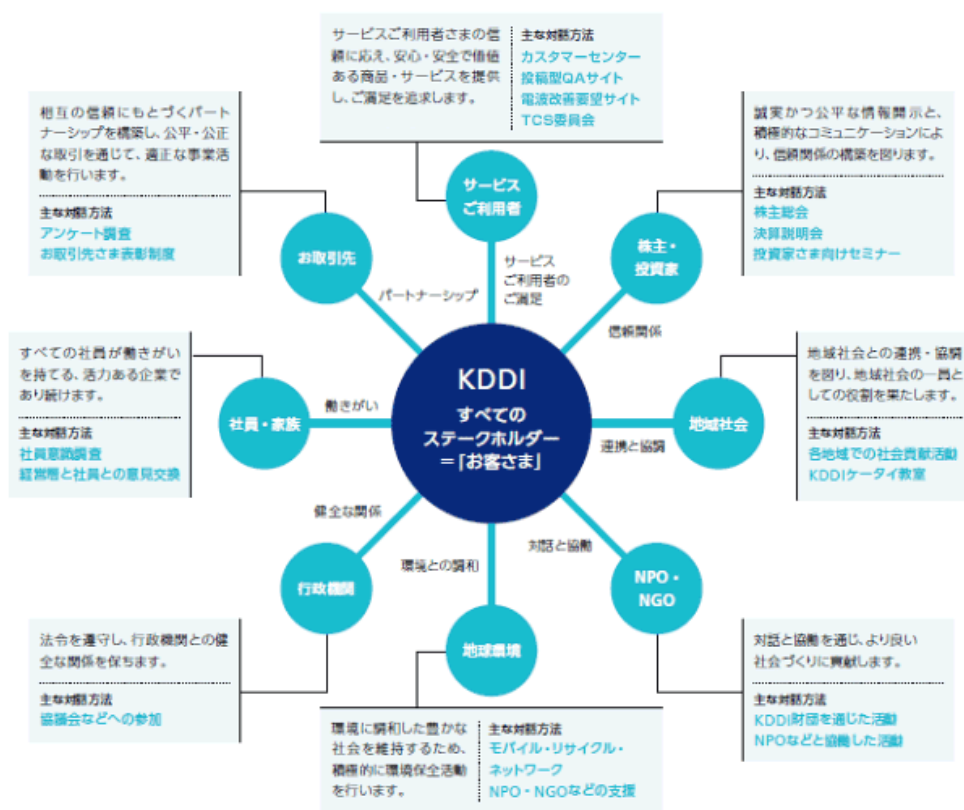
また、「KDDI 環境委員会」では、KDDI およびグループ会社の環境保全活動に関わる方針ならびに計画などに関する事項について協議する推進体制を確立しています。

推進活動

2013 年度は、社会的責任に関する国際規格 ISO26000 の 7 つの中核主題に掲げられている約 250 項目に対する自己評価と当社 CSR 活動の現状分析の結果をもとに、課題の見直しや改善に積極的に取り組みました。2014 年 2 月に施行した「KDDI CSR 調達方針」は、このプロセスを経て策定したものです。さらに、ダイアログをはじめとするステークホルダーとの積極的な対話を行い、そのなかでいただいたご意見やご指摘を今後の CSR 活動の推進に反映させていく予定です。2014 年度は、さらなる CSR 活動の推進を図るため、GRI・G4 を参考にしたマテリアリティの見直しに向け活動します。

KDDI のステークホルダーと主な対話方法

KDDI は、すべてのステークホルダーを「お客さま」ととらえ、それぞれの「ご満足」実現を目指してさまざまな活動を行っています。



ステークホルダーエンゲージメント

KDDI は 2008 年度から「4 つの CSR 重要課題」に取り組むなかで、有識者の方々とのダイアログを通じてさまざまな活動へ助言などをいただいています。2013 年度は、ISO26000 の中核主題をテーマとしたステークホルダーダイアログおよび国際連合人権ワークショップへの参加等を実施し、2014 年度の各部署における目標設定を検討するための参考としています。

▶ ステークホルダーエンゲージメント